

## 2011年冬期の名古屋大学東山キャンパス内での オオコノハズク捕獲記録と名古屋市内での観察・保護記録

Banding record of Collared Scops Owl, *Otus lempiji* (Horsfield, 1821),  
in Nagoya University campus in the winter of 2011  
and observation and collected record in City of Nagoya

太田 貴大 (Takahiro OTA)

名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻  
Department of Civil Engineering, Graduate School of Engineering, Nagoya University, Nagoya 464-8601,  
Japan

### Abstract

Collared Scops Owl is migratory and eastern Asian endemic nocturnal raptor species. The species was listed on the Red Data Book of Aichi (2009 version) and Nagoya (2010 version) as near-threatened category. In Nagoya, some individuals are observed mainly in migratory seasons and others in winter. I reported banding record of the species in the winter season of 2011 in Nagoya University Higashiyama Campus. This capture record was the third one in Nagoya to date. The plumage indicated that the individual could be first-winter age but the sex was unknown. I also summarized winter observation and collected records in Nagoya.

### はじめに

オオコノハズク *Otus lempiji* (以降, 学名は日本鳥類目録改訂第7版に従う: 日本鳥類目録編集委員会, 2012) は, 愛知県では「夏期は丘陵地および山間部の林で繁殖し, 冬期は平野部の雑木林や工業地帯のグリーンベルトなどにも生息するが数は少ない」とされており, 同県では「準絶滅危惧種」に指定されている(愛知県環境調査センター, 2009)。また, 冬期の生息地と考えられる名古屋市でも, 「準絶滅危惧種」に指定されている(名古屋市動植物実態調査検討会, 2010)。

本稿では2011年1月に名古屋大学東山キャンパス内での環境省鳥類標識調査において, オオコノハズク1羽を捕獲標識し放鳥したため, その概要を報告すると共に, 過去の名古屋市内における観察記録と保護記録をまとめ, 当該種の名古屋市内における冬期生息状況を概観する。

### 名古屋大学東山キャンパス内での捕獲標識記録

名古屋大学東山キャンパス内でのオオコノハズクの過去の捕獲標識記録としては, 1999年2月12日午前7時頃, 農学部管理地内の遊水地付近での1羽がある(山階鳥類研究所放鳥記録, 私信)(性別と年齢は不明)。また, 名古屋市内での捕獲標識記録としては, 1989年12月6日に千種区四谷通桃巖寺(農学部遊水地から約1km)での記録がある(山階鳥類研究所放鳥記録)(性別と年齢は不明)。

著者は, 2011年1月8日午前6時頃, 上記農学部遊水地の捕獲地点から約20m離れた地点で, かすみ網を用いてオオコノハズクを捕獲した。鳴き声を流す等の誘因は実施していなかった。性別は不明, 年齢は第1回冬羽と判断した。また, 脂肪は少なく痩せ気味であった。当日の名古屋の日の出時



図1 名古屋大学東山キャンパス内で捕獲されたオオコノハズク



図2 捕獲されたオオコノハズクの右翼

刻は7:01であり、捕獲時は薄明るい状況であった。捕獲時の天候は晴れ、気温は約 $-1.5^{\circ}\text{C}$ であった。かすみ網を用いた捕獲は、鳥獣保護法に基づく環境省発行の捕獲許可と、名古屋大学農学部の現地調査許可のもと実施した。

捕獲個体は、特徴的な橙の虹彩色（図1）と、計測された自然翼長（159mm: 計測方法は、山階（1934）の翼長と同一）より、オオコノハズクと同定した。同所的に生息しオオコノハズクとの識別に注意を要する種であるコノハズク *Otus sunia* (Hodgson, 1836) は、虹彩色が黄色であり、オオコノハズクよりも各体部位の計測値が小さい。捕獲個体の自然翼長の計測値（159mm）は、本州産亜種コノハズク *Otus sunia japonicus* の山階による計測値（138.5-149mm: 山階, 1941）よりも10mm以上大きかった。

性別は、過去の文献で有効な識別点についての記載が無く、不明であった。年齢に関しては、深井（2006）により、第1回冬羽は成鳥羽に比べ、初列雨覆と大雨覆の羽色が淡いという点が指摘されている。本個体の初列雨覆、大雨覆は共に淡色であり、写真（図2）を基にして第1回冬羽と推定した。

### 名古屋市内での冬期の観察・保護記録

名古屋市内のオオコノハズクの生息状況を過去の文献の記録を基に概観する。観察記録は、愛知県と名古屋市の鳥類生息状況調査や探鳥会の結果を集計した文献を参照した（表1下部）。また、名古屋大学東山キャンパス周辺での記録にも注目した。これらの文献より、名古屋市内でのオオコノハズクの観察日と地点を抽出した（表1）。保護記録は、県内で保護された鳥類が移送・飼育されている愛知県弥富野鳥園の保護記録資料を参照した（表2）。

合計で8例の観察記録と15例の保護記録があった。観察と保護記録を月ごとにまとめると、記録があった月は、1～4月、10～12月で、最も多い月は11月であった。夏期（5～9月）の記録はなかった。観察数が少ないため、観察記録の地理的な特徴は言及できなかったが、名古屋大学周辺（東山公園と猫ヶ洞池公園）の観察数は、4例であり、1～3月であった。

表1 名古屋市内でのオオコノハズクの観察記録

文献	観察日	観察地点
1	2009年1月16日	千種区 東山植物園
2	1967年1月3日	千種区 猫ヶ洞池西岸
2	1991年2月10日	千種区 猫ヶ洞池北東
3	1999年11月	天白区 相生山緑地
3	1994年12月	天白区 相生山緑地
3a	1979年10月	天白区 相生山緑地
3a	1979年11月	天白区 相生山緑地
3b	1985年3月	千種区 東山公園

文献番号：1. 日本野鳥の会愛知県支部（2009），2. 平和公園鳥類調査グループ（1994），3. 新修名古屋市史資料編編集委員会（2008），3a. 名古屋市農政緑地局（1981），3b. 名古屋市農政緑地局農産課（1986）（3a,bは，3をもとに遡った）

観察記録のない文献：愛知の野鳥2006（愛知県野鳥保護連絡協議会編），日本野鳥の会愛知県支部報（2006年から2011年まで発行分。ただし上記文献番号1は除く。），名古屋市平和公園の鳥類－平和公園南部地区鳥類調査報告書2（平和公園鳥類調査グループ編）

表2 名古屋市内でのオオコノハズクの保護記録

保護日	保護地点
1997年1月2日	守山区 小幡 302号線
2001年3月12日	中村区 中村公園
2003年3月14日	市内 倉庫
2003年4月5日	南区 道路
2006年10月15日	市内 道路
2007年4月2日	中区 矢場町
2007年10月23日	市内 道路工事現場
2007年11月8日	市内 カラスよけネット
2008年11月上旬	市内 工場敷地内
2009年11月3日	天白区 平針 個人自宅
2010年3月15日	中区 道路
2010年12月14日	中川区 戸田川緑地公園
2011年11月5日	市内
2011年3月16日	市内
2012年1月31日	中村区 日宮町3丁目畑横の側溝

参照：愛知県弥富野鳥園の資料（1997年～2011年）  
違法飼育の押収，その他あいまいな記録を除く

## 考 察

オオコノハズクの名古屋市内での捕獲標識は，1983年～2011年の環境省標識調査の全記録中，本件が3例目であった（山階鳥類研究所放鳥記録）。上記の期間で，オオコノハズクの全国での新放鳥総数は1923羽，そのうち愛知県内での新放鳥総数は76羽，そのうち伊良湖岬で41羽（放鳥日は10月28日～3月18日），弥富野鳥園で10羽（放鳥日は12月8日～4月11日）が記録されている（山階鳥類研究所放鳥記録）。これより，名古屋市内での捕獲標識数は比較的少ないと考えられる。これは調査員の分布により大きく異なることに留意する必要がある。

本種は夜行性であり，羽色や羽衣のパターンも樹皮や落ち葉に酷似し目立たないため（図1），主に昼間に実施される採鳥会や調査等では発見されにくいと考えられる。そのため，標識調査の捕獲による生息確認は，生息状況を把握するための有効な調査手法である可能性が高い。また，年齢の特定，脂肪量の推定等が可能な場合もあり，より詳細な個体の情報を入手することも可能となる。今後は，音声誘引による捕獲効率の向上なども併せて，再捕獲の知見を蓄積し，名古屋市内やキャンパス内での渡りと越冬の状況を特定する必要がある。

本論でまとめた名古屋市内での過去の観察・保護記録から，春秋期の渡りのための通過と冬期の越冬のための滞在による生息が確認された。名古屋市の平均気温が最も低くなる厳冬期（1月～2月：名古屋地方気象台での2010年までの30年間の平均気温に依る）で，捕獲，観察，そして保護の記録が散見されるため，名古屋市内または名古屋大学東山キャンパス内に越冬目的で長期間滞在する個体が存在している可能性がある。今後は，厳冬期に東山キャンパスに生息している個体が，南部への移動を目的とした通過なのか，東山公園を含めた当該緑地での越冬を目的とした長期間滞在なのかを明らかにする必要がある。また，準絶滅危惧種であるオオコノハズクが中継地や越冬地として，名古屋大学東山キャンパスを利用している可能性が示唆されたため，本種の生息に適した生息環境の整備もしくは管理を行う必要がある。

## 謝 辞

観察記録については名城大学橋本啓史氏に多くの文献情報をご提供いただいた。また、捕獲・保護記録については鳥類標識調査員齊藤成人氏、石田朗氏、愛知県弥富野鳥園管理事務所に多くの情報をご提供いただいた。年齢識別については、鳥類標識調査員深井宣男氏にご助言いただいた。環境省鳥類標識調査の過去の放鳥数については財団法人山階鳥類研究所に情報の利用許可をいただいた。ここに深く感謝の意を表する。

## 文 献

- 愛知県環境調査センター編（2009）愛知県の絶滅のおそれのある野生生物：レッドデータブックあいち 2009—動物編—。愛知県環境部自然環境課。
- 平和公園鳥類調査グループ（1994）名古屋市平和公園の鳥類—平和公園南部地区鳥類調査報告書。平和公園鳥類調査グループ。
- 深井宣男（2006）コノハズク・オオコノハズク・アオハズクの齢の識別は可能か？鳥類標識協会 2006 年度第 21 回大会要旨集，6。
- 名古屋市動植物実態調査検討会（2010）レッドデータブックなごや 2010—2004 年版補—。名古屋市環境局環境都市推進部生物多様性企画室。
- 名古屋市農政緑地局（1981）名古屋の野鳥 1980。名古屋市。
- 名古屋市農政緑地局農産課（1986）名古屋の野鳥 1986。名古屋市農政緑地局農産課。
- 日本鳥類目録編集委員会（2012）日本鳥類目録—改訂第 7 版。日本鳥学会。
- 日本野鳥の会愛知県支部（2009）日本野鳥の会愛知県支部報「愛知の野鳥」鳥だより。No.266。
- 新修名古屋市史資料編編集委員会（2008）新修名古屋市史—資料編—自然—目録。名古屋市。
- 山階芳麿（1941）日本の鳥類と其生態—第二巻。岩波書店。
- 山階芳麿（1934）日本の鳥類と其生態—第一巻。梓書房。

(2012 年 10 月 15 日受付)